

## ＝ 暑い・熱い 夏 ＝

早いもので、もう7月。「組織力量の再生・強化と実践力の発揮」を掲げ、歩み始めた基幹労連第9期の任期も残すところあと2ヵ月間となった。先達が築いた産別統合の意義とそれぞれの歴史を重んじ、軸をぶらさぬ運動に努めてきた。一つ一つの運動に軽重をつけるべきではないが、今期最後の取り組みは、最大の課題であり大きな壁でもある。

二度も悔しく辛い思いをし、そのもとで諦めと失意の中で激論を交わし、悩み続け、それでも産業別組織として「組合員とその家族の幸せ追求」を推し進めるためには、政治のプロセスを通じた取り組みが欠かせない、自らの代表を送り出すことが必要との決意のもと、基幹労連総体として捲土重来を期し参議院議員比例選挙に臨むこととした。その取り組みは、組合員とその家族はもとより、OBの皆さんをはじめ、働く仲間の安心・安定を旨とするもの。いよいよ、その最終盤に差し掛かった。

今、各地域で、基幹労連退職者の会の皆さんをはじめ、労働運動をご指導いただいた先輩たちが、かつての仲間や知り合いに声掛けをしていただいていることをご存じだろうか。先輩たちの熱い思いは時として叱咤の嵐となることもあるが、厳しい言葉のその裏にこそ、思いがあるということを感じることはないだろうか。現役に二度と辛い思いをさせないための優しさなのだと思えるのである。後ろ姿にそっと頭を下げ、現役として来たる本番に整齊と臨まなければならない。

その熱い戦いと、暑い夏がやってくる。夏の花といえば、太陽に真正面から向かっていくひまわりが連想されるが、可憐でありながら太陽に向かって伸びていく花がある。「アサガオ(朝顔)」、支柱にツルを巻き付けながら太陽を求めどんどん上へと成長していく。その花言葉は、「愛情、結束」。花の色によって違うらしく、青色は「短い愛、儂い恋」というネガティブなものもあるが、白色は「固い絆」、紫は「冷静」という。

その花言葉にあやかって…。私たちは、政策実現活動において、「みんなで決めたことはみんなでやり抜く」ことを確認した。そのためになくはならないものは、固い絆とそのもとでの実行力である。そして、周囲に惑わされない冷静さを保つことである。軸を見失うことなく、決戦の日に向けて上へ、上へと、登り詰めていかななければならない。その決戦の日は7月21日と決まった。毎年7月の21日ごろが大暑の日、その日から約2週間が大暑の期間である。読んで字のごとく大暑は1年で最も暑い時期を意味するが、いかに暑かろうと基幹労連27万人が結束して熱い・熱い戦いに臨まなければならない。

そして忘れてはならないもう一つの夏の陣、仲間の働く職場である。7月1日から全国安全週間が始まる。その名も令和元年度全国安全週間。昭和3年から一度も中断されることなく、今年で92回を迎えるという。「新たな時代にPDCA みんなで築こうゼロ災職場」。7月は基幹労連安全衛生対策強化月間でもある。ものづくりの現場は、まさに暑熱の中。体調管理に努め、目配り・気配りと、「ご安全に」の声掛けで熱中症を防止しよう。

あと少し、もう少しの頑張りは政策実現活動で。仕事では、頑張ることと無理することの違いを互いに指摘し、令和元年の猛暑を乗り切っていこう。

爽やかに咲く白色のアサガオの花言葉はいま一つ、「あふれる喜び」。安全と健康であることがそれである。

ご安全に

2019年7月1日  
日本基幹産業労働組合連合会  
中央執行委員長 神田 健一